

交流セッション

青年委員会セッション

テーマ

地域実践活動報告

運営 | 青年委員会

地域実践活動アワード

建築士会に求められる、公益性に対する基幹事業のひとつとして全国の地域実践活動があげられます。この活動は職能で得た専門知識を地域に還元すると共に、建築士(会)が地域社会や市民・学生とつながる役割を担っています。

青年委員会セッションとして実施する地域実践活動報告では、全国47単位士会の活動の中から各ブロック青年建築士が推薦する秀逸な活動事例を紹介しました。また、参加者の皆様にはアワード選考にもご協力していただき、最優秀賞、優秀賞を大会式典にて表彰させていただきました。今回の青年委員会セッションへの参加が皆様の活動と建築士会活性化に向けた次の一歩となることを期待しております。

最優秀賞

「風穴のある場所の価値」

関東甲信越ブロック代表(一社)長野県建築士会 佐久支部 青年女性委員会 荒木貴志

優秀賞

「ヤマケン木のテント プロジェクト」

近畿ブロック代表(一社)京都府建築士会 山と住文化の研究会 高橋勝

奨励賞

防災イベント「建築士と一緒に

楽しく学んで防災博士になろう!」

北海道ブロック代表(一社)北海道建築士会 旭川支部 青年委員会・女性委員会 安藤佳紀

「建築体験ウォッチ

～職業体操で建築を学ぼう～」

東北ブロック代表(一社)青森県建築士会 青森支部 平塚 勝

「小さな家づくり」

東海北陸ブロック代表(公社)富山県建築士会 青年委員会 岡崎光晴

「鳥取市における

「リノベーションまちづくり」の実践」

中四国ブロック代表(一社)鳥取県建築士会 東部支部 林 拓磨

「景観教室」

九州ブロック代表 宮崎市(一社)宮崎県建築士会 宇田津直樹

日時...平成29年12月8日(金)10:00~12:00

会場...京都市勤業館「みやこめッセ」

地下1階 第1展示場 A

参加者...353名

建築士会周知ポスター 全国版デザインコンペ

平成29年6月に開催したこのコンペには、全国から応募のあった47作品から、以下の作品が選考されました。

この企画は建築士の職能を一般消費者にアピールすると共に、建築士会の理念や事業活動を社会に広く発信し、この先の建築士会入会促進にも繋がるよう行いました。ぜひ、「建築士の日」イベント等で一般消費者の目にとまるような掲示や単位士会事務局入口への掲示、単位士会発信の配布物への折込など、建築士会周知ポスターを活用していただけることを期待しております。

最優秀賞

(公社)徳島県建築士会 青年委員会(代表... 青年委員長 後藤和典)

優秀賞

(一社)東京建築士会 菊池 甫

(公社)兵庫県建築士会 西脇聖嗣

(一社)埼玉建築士会 中村徳男

(一社)奈良県建築士会 城田全嗣、(一社)和歌山県建築士会 島村健司(協働作品)

(公社)沖縄県建築士会 伊東 亮

(樋渡裕輔/日本建築士会連合会 青年副委員長)



ブロック代表者の発表報告



最優秀賞「風穴のある場所の価値」(関東甲信越ブロック)

まちづくり3部会合同セッション

テーマ

空き家問題と 歴史・景観まちづくりにおける 建築士の役割

運営 | 街中(空き家)まちづくり部会、歴史まちづくり部会、景観まちづくり部会

日時...平成29年12月8日(金)10:00~12:00

会場...京都市勤業館「みやこめっせ」
 地下1階 第1展示場B

参加者...316名

活動報告

街中(空き家)・歴史・景観まちづくり3部会合同セッションは、「空き家問題と歴史・景観まちづくりにおける建築士の役割」をテーマに開催された。会場の「みやこめっせ」第1展示場Bは定員が140名であったが、全国の3部会関係者を中心に大入りであった。街中(空き家)部会長の米村氏が総司会を務めた。

米村部会長の開会挨拶から始まり、歴史・街中(空き家)・景観の各部会長から、各自5分程度の持ち時間で部会報告がなされた。

歴史まちづくり部会については松竹部会長から、前年の大分大会以降にフェイスブックを立ち上げ、情報の共有化と連携を図っていると報告がされた。

街中(空き家)まちづくり部会については米村部会長から、各単位士会の地域リーダーのアンケートを実施し、今後の行動計画を提示したとの報告がされた。

景観まちづくり部会は森崎部会長から、まちづくり5部会の中で根幹をなしている部会であり、引き続きまちづくり活動の中核を担っていくべきとの報告がされた。

パネルディスカッション

引き続き、森崎まちづくり委員長をコーディネーターとして3名のパネラーによる事例報告をもとに問題提起(15分ずつ)がされ、パネルディスカッションが行われた。

まず、福岡士会の中島孝行氏から「福岡・八女福島の空き町家の再生とまちづくり」と題して問題提起がされた。

中島氏は、NPO八女町並みデザイン研究会が中心となり、八女福島の空き家の活用

状況を調査した上で、保存活用推進の体制をつくり上げたと説明し、空き町家の再生事例として永尾家・加藤家・丸林家を紹介した。まとめとして、空き町家の再生には、住民・技術者・行政のネットワークと「覚悟」が必要であり、次の担い手を養成することが必要であるとした。

次に、連合会まちづくり委員であり熊本士会の豊永信博氏から「熊本・上乃裏通りの古民家再生」について事例報告がされた。豊永氏は、本事例の立役者であるサンワ工務店・山野潤一氏の資質により事業が展開していると説明した。山野氏が手掛けた「上乃裏通り」は、古民家を活用した飲食店等が多数展開し、古民家再生店舗群の出現で、熊本市内でも有名な通りとなり、400mの通りと、その枝路地に再生件数100件以上の店舗があり、個性的で魅力的な一帯を形成していると紹介した。

3番目に、奈良士会の中尾七隆氏から「空き町家利活用の推進体制と建築基準法の課題」と題して、桜井市の桜井駅南エリア周辺地区の事例報告がされた。中尾氏は、交通結節点である現地では2011年にまちづくり協議会を立ち上げ、2013年から14年にかけて、暗いイメージのアーケードを撤去し、2016年に都市再生推進法人を設立したと経緯を報告した。また、旧銀行舎をカフェにリノベーションしたり、町家の利活用を推進していると報告した。

パネラーの事例報告をもとにコーディネーターの森崎委員長がリードし、意見交換が活発に行われ、次回の埼玉大会での再会を誓い閉会した。

(高橋康夫 / 群馬建築士会)



コーディネーターの森崎まちづくり委員長



パネリスト。左から、中島氏、豊永氏、中尾氏



熱心に意見交換に参加された全国の建築士

女性委員会 + 福祉・防災まちづくり部会 合同セッション

テーマ

コミュニティア型 仮設住宅地を考える

運営 | 女性委員会、福祉まちづくり部会、防災まちづくり部会

日時...平成29年12月8日(金) 10:00~12:00

会場...京都市勤業館「みやこめっせ」
地下1階 特別展示場A

参加者...162名

活動報告

はじめに、女性委員会の小野全子委員長から平成29年度第27回全国女性建築士連絡協議会および「魅力ある和の空間」ガイドブック制作について、小林淑子委員から福祉避難所の調査報告があった。

防災まちづくり部会の佐藤幸好部会長と中西重裕副部会長から、災害時の迅速な復旧復興のための地域や行政との「普段付き合い」「事前の備え」の行動指針の提案や、「復興等支援に係る事前活動指針」と木造応急仮設住宅供給に係る連絡会議の中間報告があった。

福祉まちづくり部会からは、行動計画や47地域リーダーへのアンケート結果を中村正則部会長が、東京オリンピック・パラリンピック関係の呼びかけを本多健委員が、今回のテーマに関する「十津川村復興住宅」の報告が東京建築士会の益尾孝祐氏からあった。

パネルディスカッション

会場の関係から3者の合同のセッションとなると聞き、不安から始まったが、活動報告が福祉避難所 仮設住宅 復興住宅と聞き、ストーリーが繋がった。共通するのは「コミュニティア」そこには常に「人」と「生活」の安全、安心

がなくてはならない。

テーマ...「コミュニティア型仮設住宅地を考える」

コーディネーター...福祉まちづくり部会長 中村正則(徳島県建築士会)

パネリスト...女性委員会 松山梨香子(岩手県建築士会) 防災まちづくり部会 中西重裕(和歌山県建築士会) 福祉まちづくり部会 益尾孝祐(東京建築士会)

代表感想

パネリストの皆様のご意見から、被災地での現状の課題、各地域にあった木造住宅の必要性和コミュニティの持続可能な形をつくることの大切さ、さらには、建築士としての地域住民と行政との橋渡しの貴重な役割について改めて教えていただきました。福祉・防災まちづくり部会との合同により得ることができたものと思います。皆様と共に今後の活動に活かしていけたらと思っております。

(小野全子 / 女性委員会 委員長)

私たち建築士は、建築を通して人の命と暮らしを支える大切な役割があると考えています。今回の合同セッションでは、コミュニティアをキーワードに、災害が発生してからの避難所 応急仮設 復興住宅 普段の生活再建まで



合同セッション全体会場風景

のプロセスで、建築士の役割がいかに大切かを、改めて考えるきっかけになりました。そして、それぞれの部会や青年、女性との連携も大切であることも確認できました。

(佐藤幸好 / 防災まちづくり部会 部会長)

避難所・仮設住宅・復興住宅の建設というハード面だけでなく、常に人々に寄り添うソフト面が大切なこと、そして大災害時のコミュニティア実現には、日頃の住民のコミュニティ活動や行政との事前の備えの大切さが再確認できました。防災・福祉・女性委員会との連携での取り組みの大切さが共有できたことも大きな成果です。福祉まちづくり部会として益尾孝祐氏の「十津川村復興住宅」の報告ができ、たいへん良かったと思います。

(中村正則 / 福祉まちづくり部会 部会長)



開会挨拶および趣旨説明



セッション出演者



セッション出演者

環境部会セッション

テーマ

各地の気候風土型認定住宅 認定指針策定に向けた 単位建築士会の取り組み

運営 | 環境部会

日時...平成29年12月8日(金)10:00~12:00

会場...京都市勤業館「みやこめっせ」
 地下1階 大会議室

参加者...80名

活動報告

省エネ基準のロードマップとして2020年に向けてすべての新築における住宅・一般建築物の適合義務化が実施されようとしています。その中で、地域の気候および風土に応じた住まいについて「気候風土適応住宅の認定のガイドライン」が国土交通省より特定行政庁に技術的助言として2016年3月に発表されました。これにより全国の都道府県特定行政庁が地域に沿った気候風土型認定住宅の認定指針の策定が今後行われることとなります。

2016年の大分大会での「地域型住宅・省エネガイドラインについて考える」に続いて今回の京都大会では各地での気候風土型認定住宅認定指針策定に向けた単位建築士会の取り組みについての取り組みを主題としました。

4つの報告

前半では中村勉環境部会長の挨拶の後に4つの報告を行いました。

報告1として、気候風土型認定住宅の認定指針とガイドラインについて、篠より紹介を行いました。

報告2では、熊本建築士会の古川保氏よ



中村氏による開会挨拶 写真提供...佐野春仁

り「熊本建築士会が考えるガイドライン作成の経緯」のテーマで、熊本建築士会での熊本の地域の気候、風土の特徴などを考えた内容とガイドラインを照らし合わせた検討の成果である熊本型気候風土型ガイドライン案について、熊本県庁に提言された内容も含めてお話ししていただきました。

報告3では、「東京型の気候風土適応型住宅を考える」のテーマで東京建築士会の高橋昌巳氏より、日本人の生活の知恵を引き継ぐ、文化性、技術の継承、文化財ではなく普通の伝統的住宅が生き残るために東京でのデータ採りをした事例の紹介で、さまざまな課題を解決してきたお話をしていただきました。

最後の報告4では、「京町家に学ぶ伝統の技術観」のテーマで京都建築専門学校長の佐野春仁氏より、次世代に京町屋を残すために、京都の歴史から平成の京町家のこと、京都建築専門学校の学生の実践的教育としての町屋の再生や平成の京町家の伝統型モデル住宅の建設等を通して若者と伝統の技術者が一緒にやっていくことは大事だということをお話ししていただきました。

パネルディスカッション

後半はパネルディスカッションの形式で、前半の登壇者、中村部会長がパネリストとなり、司会を篠が務め進行しました。

会場からもそれぞれの取り組みの紹介がありました。勉強会をスタートしている埼玉建築士会の鈴木二葉氏からは気候風土型の全県でのマップづくりおよび勉強会の内容、愛知建築士会の浅井裕雄氏からは県・市の行政と建築団体で勉強会が開始したこと、山梨県建築士会の長坂治氏からは省エネ計算と



報告風景



報告風景(写真提供...佐野春仁)

八ヶ岳らしい家づくり勉強会とこの後の予定、長野県建築士会の寺澤雄治氏からは長野県地球温暖化対策条例についてと気候風土型勉強会の予定について発表していただき、それぞれの取り組みについてパネラーと意見交換をいたしました。他に会場から岡山、沖縄での勉強会の紹介もありました。

最後に、中村部会長より関東ブロック建築士会の勉強会の紹介と、さらに他のブロックでも気候風土型勉強会を始められるようにとの提案があり、短時間でしたが充実したセッションになりました。

(篠 節子 / 環境部会 副部会長)

情報部会セッション

テーマ

実務者にBIMがもたらす効果 耐震補強も省エネもBIMで解決!

運営 | 情報・広報委員会、情報部会

情報部会は、全国大会のセッションという形で建築士のためのさまざまな情報を提供してきました。以前には、ITをテーマとした情報や建築士のペナルティに係る情報など、いろいろな角度からの情報を提供してきました。

2013年の鳥根大会より5年にわたり、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）に関するさまざまな情報を提供してきました。

今回はBIMそのものの情報ではなく、BIMを利用してどのようなことができるのか、また、大会テーマ「山とまちと木造建築」に関連したBIM活用の情報提供を行いました。

リレーセッション

3名の方によるリレー方式のセッションを行いました。講演者は、北尾靖雅氏（京都女子大学教授、広報部会委員、京都府建築士会）、大石佳知氏（アーキキューブ代表、情報部会長、岐阜県建築士会）、鈴木裕二氏（アド設計代表、BIM-LABO代表、兵庫県建築士会）です。

はじめに、北尾氏よりBIM活用の可能性として地域産木材の供給と産業遺産の保存と活用についての講演をいただきました。山での木の調査からその木を使った木造建築に関する内容、そして、点群を用いて既存の建物（産業遺産）の調査、図面・模型（3Dプリンターを用いた模型）に展開していく手法などが興味深く感じられました。特に、模型をミニカメラ

で撮影しその映像を紹介した際には、セッション参加者の興味深い顔が印象的でした。

次に、大石氏よりリフォーム時のBIM活用が紹介されました。3Dスキャナーを用いて現況を調査しそれを図面化していく内容です。リフォームで多くの労力が必要な現地調査が短時間で完了するメリットの紹介、そして今まではBIMという新しく建築を行う際のツールであったものを、リフォームなど他の活用方法の紹介であったことが新鮮でした。

最後に、鈴木氏より構造設計にBIMの活用がどこまでできるのか、意匠設計と構造設計の連携方法が紹介されました。今まではBIMは木造であると意匠として軸組が表現できるところが特徴であり便利などであることがよく紹介されたのですが、今回は意匠と構造の連動そして構造図の操作がよりわかりやすく紹介されました。歯に衣着せぬ口調で話される姿が印象的でした。特に興味深かったのが、本来このようなBIMの紹介をした場合メリットのみが強調されることが多いのですが、今回はデメリットの部分も、そして2D・3Dを併用することでより効率的に活用ができることが紹介された点です。このことは、3名の講演者の方すべてに共通することです。

2時間という短い時間の中で3名の方がスピーディーでわかりやすく興味深い講演を行っていただいたことに感謝します。

セッション会場についてですが、通常は小

日時...平成29年12月8日(金)10:00~12:00

会場...京都市勤業館「みやこめっせ」
1階 第2展示場 特設ステージ

参加者...62名



自社開発した3Dスキャナーで既存建物を計測しモデル化する一連の作業を解説する大石氏



BIM活用により図面の描き方にも柔軟な対応が求められることを解説する鈴木氏

さくても一つの室の中でセッションを行うのですが、今回は昼食会場・懇親会会場の舞台を利用したセッションとなりました。広い会場の一部で本当にセッションを聞きに来て下さるのだろうか、うまくいくのだろうかという不安を抱えながらでしたが、会場を歩き来られる方が興味をもって近づいて来られ、立ち止まりあるいは席に着いてセッションを聞いてくださいました。偶然の産物ですが、より多くの方に情報提供ができた形となりました。

情報部会の目的である、より多くの建築士の方に情報を提供することが、うまくできたのではないかと考えております。周辺の他のイベントの音や屋台からのおいしそうな香りなど、オープンな空間でのセッションとなりましたが、情報提供にはふさわしい場所であった気がします。

情報部会では、今後も全国の建築士のみなさんに全国大会のセッションを通じて、さまざまな情報を提供していくことができればと考えております。

(田中克之 / 情報部会)



舞鶴市の赤レンガ施設を点群測定し、図面化、3Dプリンタによる模型製作までの流れを解説する北尾氏



今年のセッション会場（昼食会場の一角で開催）3DCAD、BIMや点群測定に興味をもった会員が熱心に聴講

第5回全国ヘリテージマネージャー大会

テーマ

歴史的建築物の 保存活用による地域創生

運営 | 全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会

日時...平成29年12月8日(金)10:00~12:00

会場...京都市勧業館「みやこめっせ」
地下1階 日図デザイン博物館

参加者...262名

時代は大きく動きつつある。歴史的建造物の活用が、人口減少社会における地域創生の切り札の一つとして取り上げられるようになってきた。大会では、古民家等の活用による地域創生の最新の動向を共有しつつ、この動きを持続性あるものとしていくため、建築士以外の多様な人々との連携の必要性について議論を深めていくこととした。

事例発表

古民家再生による地域創生(篠山モデル)について

発表...金野幸雄(一般社団法人 ノオト)

古民家等を活用した集落再生の事例として「古民家の宿「集落丸山」、城下町再生の事例として「篠山城下町ホテルNIPPONIA」が報告された。空き家となった古民家群をカフェ、レストラン、工房、宿泊施設として面的に再生活用するもの(分散型の開発事業)で、若手事業者の地方帰帰、雇用と内発型産業の創出を実現している。今年度には、これが国策となって全国への事業展開が始まっており、建築基準法、旅館業法、文化財保護法等の見直しも進んでいる。

KOMOの多彩な人材による活動

発表...桐浴邦夫(KOMO代表)

KOMOは「古材文化の会伝統建築保存活用マネージャー会」の略称である。会員は京都が中心であるが、近畿各府県や全国に拡がり、建築士や建築士以外の方も参加している。またその活動も多岐にわたる。近年の活動を列挙すると、「京都を彩る建物や庭園」の認定調査、美山町(南丹市)北集落保存会の方との交流および集落センターの修景プランの提案、鳥取・熊本など被災地の往訪と報告会等、災害に備えてのデジタルマップ作成などである。

奈良県における歴史的建築物活用と地域銀行の融資について

発表...高安秀和(奈良ヘリテージ支援センター)
 育成講習会の修了者により奈良県建築士会内に「奈良ヘリテージ支援センター」を設置し活動を展開している。先進活動事例として「地域銀行との連携」がある。南都銀行と奈良県建築士会で協定を締結して「事業用町家利活用融資」が実現した。改修資金等の融資に際し「センター」が発行する専門家の「意見書」の提出を求めるもので、意見書には歴史的建築物の評価や改修にあたっての建築基準法の手続きの要否等を記載する。現在2件が融資を受けている。

兵庫における人材育成の新展開について

発表...沢田 伸(ひょうごヘリテージ機構)

2001年度にHM養成講習会を始めて10余年、歴史文化遺産の活用には、建築士だけではなく多様な人々との連携が不可欠であることを確認し、今年度の第14期は、これまでのHMに加えて、ヘリテージコーディネーター(HC)とヘリテージサポーター(HS)を加えた3種の人材の同時養成に取り組んでいる。昨年、観光、不動産、農村定住コーディネーターなどと検討会を開催するとともに、活用に重点を置いたアドバンス講習会を実施するなど、1年の検討期間を経てカリキュラムを固めた。

熊本地震その後

発表...山川満清(熊本県建築士会)

熊本地震は発災から1年8カ月が過ぎ、応急対応から本格復旧の段階へ移ってきた。熊本県が未指定の被災歴史的建造物の復旧のための助成事業を立ち上げた。この事業を推進する役割をヘリテージマネージャーが担うことになった。これまでの文化財ドクター事業の成果を復旧支援に実効的に活用する狙

いがある。具体的には、所有者の保全意識を高め、助成制度の円滑な運用の支援を行うこと、保有する価値を損なわず適正に保全するための修理工事へ導くこと、を担う。

最後に塩見運営副委員長から、ヘリテージは「進化」「深化」の段階から「真価」が問われる時代に入ったとの展望が語られ、閉会した。(沢田 伸/全国HMネットワーク協議会運営副委員長、兵庫県建築士会)



会場風景



事例発表者